

まごころだより

2023年 3月号

“ちょっとしたオシャレ”

振り返ればオシャレなんて作業に追われてする暇もなかった。過去においては身だしなみだけでなく、少しこまやかな格好を意識した時もあったけど、家事や家業の仕事に追われて次第にオシャレなんてする気持ちも薄れていった。歳を重ねてそんな人は大勢いらっしゃると思います。改めて少しだけ奨めてみても、恥ずかしいと言って中々受け入れて貰えません。

ですが興味はあるのです。じゃあちょっとだけなら、とはにかみながらネイルをやり始めると、まるで少女のように嬉しそうにしています。



“おしゃまな妹”

まごころを利用している就学前の子供の妹。毎回、お兄ちゃんを送っていく内に、すっかり懐いてくれた妹。お母さんが作ってくれた衣装を自慢げに見せてくれます。でも間に合わなくてそのまま帰ってしまうと、見てくれなかったと大泣きして機嫌をそこねてしまうらしく、親御さんが是非見てやってもらえないかと頼まれます。私達はこんな関わりがあることが楽しみな事なのです。

“オカリナ演奏”

職員がオカリナを演奏できるというのでお願いしました。な

んととても良い演奏をしてくださいました。ピアノやギターとは違った哀愁のある音色で、気持ちを穏やかにしてくれます。聞いている利用者もその優しい音色にうっとり聞き入っていました。



“手作りのおやつ”



よく手作り

のおやつを出しています。利用者と一緒に作るおやつです。お店のお菓子とは違って、少し格好が悪いのですが味は良いです。利用者もそれは承知です。でも自分で作ったものは良いわねと、こちらの事を気遣ってくれているような気がしないではありません。もっと上手に作れるように利用者と練習します。

“お手伝い”

いつもは拒否がある人なのですが、今日は機嫌が良いのかタオル干しを手伝ってくれました。いっぱい話し掛けていると、その合間に返事や言葉を返してくれる。そんな普

通のことなのですが、自分からはしゃべらなくなって無口になってしまいます。ここでは何やかにやと声を掛けておしゃべりを自分からしてもらえよう願っています。

